

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100578		
法人名	有限会社 メープルウェルフェアサービス		
事業所名	グループホーム ひまわり	ユニット名	1階
所在地	延岡市北川町川内名8307		
自己評価作成日	平成25年1月4日	評価結果市町村受理日	平成25年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvCd=4572100578-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成25年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、入居された方々が、笑顔で安心して生活ができるよう、また、職員一人ひとりが認知症ケアのやりがいや楽しさを持って生き生きとした仕事ができるように、常にスキルアップしていけるよう、研修の充実に心がけています。職員の入れ替わりも少なくなり、安定したサービスを提供することができるようになりました。長年入居されている方も増えてきたため、徐々に重度化してきておりますが、ご家族を巻き込みながら、少しでも楽しく生活していただけるよう努めています。また、ご家族の気持ちを理解する事も重要なことと考え、認知症の人と家族の会 県北地区会を発足し、県北地区全体で定期的な家族の集いを行ったり、認知症サポーター養成講座などの啓発活動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境を生かし、「笑顔でよりそう」を理念として、ゆったりとかかわり、利用者と共に笑顔を喜びを感じながら、職員一体となり、日々ケアの実践に取り組んでいる。管理者は、「ケアの質の向上には、教育が重要である」との信念を持ち、サポーター養成講座の開催、家族を巻き込んだ認知症ケアの相談など、グループホーム内・外での啓発活動を積極的に行い、職員が達成感が得られるよう資格取得制度も提案し、職員のスキルアップ研修にも取り組んでいる。代表者は、法人全体の管理者会議で、職員の意見や提案事項の問題解決、業務改善に向けた取組の組織作りに力点を置き、安心して医療を受けられるように支援体制も構築されている。また、近隣の人々との協力関係がしっかり出来上がっており、地域密着が実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちがあるべき姿として、職員全員で話し合い、理念を作り、実践していけるようにミーティング等で話している。		「笑顔でよりそう」というグループホーム独自の理念を作り、玄関とホールに掲示し、ミーティング時には、その都度話し合い、職員全員で共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事へ招待したり、地域への行事に参加するなど行っている。しかし、入居者の心身の状態が低下してきているために、以前と比べると交流の頻度が少なくなっている。		地区の公民館長の訪問が常にあり、情報交換が密に行われている。地区の農業祭に参加したり、幼稚園児の訪問や近隣者からの野菜の差し入れなどがあり、日常的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして地域へ出向き、「サポーター養成講座」を開催したり、当事業所全体でも講座を開催した。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、運営推進委員会を開催し、参加されるご家族や地域の方々に様々な取り組みの報告や事故の報告などを行い、たくさんの意見をいただきながら、サービスの質の向上に活かしている。		運営推進会議には、事前に議題を提案している。感染状況、事故報告などは、事実をありのままに報告し、参加者から多くの情報や意見の交換が活発に行われており、ケアの質の向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に参加していただくことで、問題解決の相談や話し合いを行い、十分な連携をとっている。		市町村担当者と日ごろから連絡を取り、伝えたいことは早めに報告、連絡、相談を行い、問題解決の指導を受けるなど、親密な協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	室内での行動を制限するような身体拘束は絶対に行うことなく、何度もミーティングでも話し合っている。しかし、玄関の施錠については、身体拘束であることを認識しつつも、開放に至っていない現状である。		身体拘束について、職員全員で研修やミーティングを重ねて理解を深め、身体拘束は行っていない。玄関の施錠は、職員全員で適宜、開錠に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的・精神的虐待の研修を何度もミーティングや外部研修で学んでおり、意識を持ちながらケアにあたるように心がけている。そのための職員のメンタルもフォローしていけるよう取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修を受けており、必要な方については、活用できるように支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時は、ご家族へ十分に説明し、理解・同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見や要望を言いやすい環境作りに努めており、意見や要望はミーティングや運営推進委員会で報告し、運営に反映されている。	家族や訪問者に対して、自然な態度、自発的に笑顔で声かけをするように心がけた結果、家族の表情も明るくなり、訪問回数が増え、意見も出るようになり、運営に反映されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所より持ち寄られた職員の意見等は、毎月行われる管理者会議にて話し合われたり、代表者と管理者やリーダーが直接話す機会を設け、運営に反映させている。	管理者と職員は、日課の中で何でも話せる関係づくりに努めている。職員の提案で、座席を変更したことで、利用者の食事のケアが容易になったりするなど、ケアに反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の取り組みや努力を十分に理解しており、各自のモチベーションを高めていけるよう、職場環境や条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、現在のホーム内の職員やケアの現状を十分に把握し、法人内・外の研修を充実させていけるよう努めている。また、個別な働きかけをすることもある。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームへの見学や同業者の研修などの機会を作り、サービスの質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時や訪問時には、まず十分に話を聞くことに専念し、困っている事や不安に思っていることに真剣に耳を傾け、信頼関係を構築していけるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人だけではなく、家族として悩んでいること、困っていることに耳を傾け、家族側の気持ちを理解することで関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話しや本人の状態・意向を確認したうえで、他のサービスが適切と思われた場合は、助言・アドバイスを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な方には、「一緒に生活する者として」日常生活の作業や調理などを共にしている。また、入居されている方から学ぶ機会もあり、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係には、十分に配慮している。ホームへの入居後に、家族の足が遠のくことのないように、本人を中心として、援助者として共に支えていけるように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドリームプランとして、会いたい人への面会や行きたい場所への同行など、支援に努めている。	利用者の要望に合わせ、線香を上げに帰ったり、隣接の有料老人ホームへ友人に会いに行く、なじみの理容室に通うなど、これまで大切にしてきた場所や人との関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	徐々に心身の状態が低下してきていることもあり、共同生活として困難な部分が多々みられるが、一人ひとりが孤立しないように支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、入所先へ訪問したり、ご家族とお話をするなど、フォローに努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り、一人ひとりの思いや暮らし方の希望を本人や家族に聞き取り、把握している。困難な場合は、本人を中心として検討している。		日常生活の中で、本人の思いを表情、言動などから把握するように努めている。生活習慣や癖なども理解し、可能な限り本人の希望や願いをかなえるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、ご家族や本人に聞き取り、その人の歩んできた道を把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察により、入居者一人ひとりの状況を把握し、また、その情報を職員全員が共有できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、または必要時にカンファレンスを行い、それぞれの意見を出し合い、介護計画を作成している。家族へは、面会時に現状を報告し、家族の意見や意向を聞き、計画に反映させている。		本人、家族の意見や意向を重視し、職員全員で意見を出し合い、個別性のある介護計画書を作成している。モニタリングは、定期的、必要時に見直しを行い、家族にも現状報告がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を常に職員全員が把握できるよう工夫している。また、それを介護計画に反映させている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、可能な限り柔軟な支援やサービスを行っている（自宅に向いて介護方法を教えたり、入院に関するお手伝いなど）。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(ケアマネジャー・民生委員・保育園・ボランティア)と協力しながら支援を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、病院受診に対して、適切な医療が受けられるように支援している。	本人、家族希望の掛かりつけ医、協力医の受診支援を行っている。基本は家族同行であるが、必要時は職員が付き添い、受診記録、家族への報告も行われている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「ほうれんそうシート」を活用しながら、看護師と十分に連携をとり、いつでも相談ができる体制を整えている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とも十分な連携を図っており、常に情報交換や連携をとっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や急変時のあり方について、本人やご家族と話し合いを行い、ホームとしてできることを十分に説明し、方針を共有している。	重度化した場合の対応については、本人、家族の意向を早くから確認し、主治医、看護師、職員全員で「終末期生活支援に関する覚書」を用いて方針を共有し、看取りへの支援体制づくりが行われている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年にはAEDの設置やそれに伴う研修、また、緊急時の対応については、定期的な研修を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や研修を行い、全職員が緊急に対応できるようにしている。	災害に対する危機意識は常に持ち、定期的に消防署参加の避難訓練を行っているが、夜間を想定した訓練、通報訓練等は行われていない。近隣者や地区消防団との協力体制の更なる強化を図る検討をしている。	夜間想定避難訓練を行い、通報、初期消火、避難誘導、集合場所の確認などを全職員が身につけるとともに、非常食の準備も検討していくことを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの個人データを参考に、その人に対して声かけを心がけている。身体的・プライベートな事に関しては、十分に配慮して声かけ等を行っている。		理念に沿って、一人ひとりの人格の尊重と、なれ合いにならないように言葉や声かけなどに配慮をしている。	利用者の尊厳と権利を守る基本的事項であり、一人ひとりを尊重し、プライバシーの確保が徹底されることをさらに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言葉に耳を傾け、話を聴くように努めている。また、意思疎通が困難な方に関しては、本人の気持ちに寄り添ったケアを心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースで過ごせるように工夫しているが、職員の勤務時間や業務の流れなど、時間をみて行うことがある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居者の方は、家族に意見を聞いて毛染めをしたり、一緒に買い物に出かけて洋服を買ったりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・下膳・後片付け・食事を入居者と一緒に行っている。テーブルのすわり位置には十分に配慮している。また、外食をすることもある。		食事の準備、後片づけなどを利用者の力に合わせて、職員と一緒にしている。食事形態や座る位置なども個人に合わせて、職員も同じものを一緒に、楽しく食事ができるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣に合わせて刻みやミキサー食にしたり、疾患によって少なめにしたりしている。十分に栄養がとれない方については、医師や看護師と相談して、栄養補助食品を摂取したりしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝前・毎食後などに声かけをして、それぞれに応じた口腔ケアを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者それぞれ個人ができることは、自分でやっただき、手助けが必要な時は介助を行っている。オムツ講習を受けるなど、本人に合ったオムツ使用方法を学んでいる。	排泄つパターンを把握し、トイレ誘導の支援を行っている。、オムツ講習会を受け、職員全員がオムツ着用の体験を行い、オムツ使用を再検討し、量を減らしたり、種類の変更など、適正化を図っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動の働きかけを行い、予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基礎疾患により、感染の関係で順番は多少前後しているが、なるべく本人に希望や時間の長さを配慮して、順番を決めたりしている。しかし、入浴時間は業務の流れで決めている。	本人の希望をできるだけ組み入れた入浴支援をしている。また、しょうぶ湯やゆず湯、入浴剤の使用などで季節感を味わい、楽しめるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の表情や状態をみながら、休むように促したり、眠る前には安定した気持ちになっていたくような声かけを配慮するなどの支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について理解し、症状の変化の確認に努めている。誤薬や飲み忘れがないように確認作業を徹底している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人がやりがいを持って、お手伝いや役割をしていただけるように支援している。本人やご家族の希望や要望により、気分転換を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と買い物に行ったり、外食や公園に行ったりしている。	花見、外食、地域の祭り、買い物、海を見に行ったりなど、家族の協力もあり、希望に沿ったさまざまな外出支援を行っている。重度の方は、ホーム周辺の散歩などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自分でお金の管理を少額でもしている方はおらず、全て事務所で管理している。時々外出したときに、少額を持って、お団子やジュースを買うことはある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話をかけたり、一緒に手紙を書いたりしている。必要に応じて、代筆や代読を行う。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	声の大きさや業務を行う際の音には、十分に気をつけている。しかし、共用空間の季節感は、なかなか出せていない。		共用空間は、静かな明るい環境で、写真や家族の作品などを展示している。台所のカウンターテーブルも低くして、使いやすく、業務中でも利用者が常に視界に入るよう、工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士と過ごせたりできるよう、ソファの位置や座る場所を工夫している。しかし、空間が狭いため、一人になるスペースを確保することは困難である。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、なるべく使い慣れたタンスや見慣れた壁掛けなどを持ってきていただくようお願いをして、心地よく過ごせるように工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手を貸しすぎることもあるが、更衣や食事など、できることはなるべく自分でしていただけるように支援している。			